

令和元年度

身延山大学国際日蓮学研究所・東国大学校仏教文化研究院

身延文庫・身延山大学附属図書館典籍調査

【共同研究報告】

身延山大学国際日蓮学研究所と学術交流を締結している東国大学校仏教文化研究院（大韓民国）が、令和元年7月1日(月)、身延山久遠寺身延文庫並びに身延山大学附属図書館に収蔵される仏教典籍の調査を行った。

午前 10 時より、身延山久遠寺宝物館において、身延山久遠寺第 22 世心性院日遠の著作として伝わる写本『菩薩戒本宗要私』を中心に調査を行った。本史料は新羅僧太賢が梵網經に説かれる菩薩戒本に拠りながら菩薩戒の意義を明らかにした『菩薩戒本宗要』の注釈書で、日蓮教団・日本仏教はもとより海東仏教においても貴重なものといえる。

東国大学校からは、金天鶴教授、並びに大学院生の成恩慶、慧聰氏の 3 名が、本学からは桑名法晃研究員が参加した。



午後より場所を身延山大学附属図書館に移し、池上要靖国際日蓮学研究所長も加わり、本学図書館収蔵の『天台四教儀』及び、その注釈書である癡空『天台四教儀山簣』の調査を行い、さらに今後の共同研究について協議した。

これまで『天台四教儀』に関連する調査・研究発表会を行ってきたが、本年度以降、上記の身延文庫所蔵『菩薩戒本宗要私』について、史料紹介を行い、さらにその歴史的・教義的位置づけを共同研究していくことになった。

（記録 桑名法晃）